

はじめに

●「**私**は、**契約社会**で**生きて**いるので、「**お気持ち**」という**概念**が、
なく、**はっきり**とした**お布施の金額**を**教えて**ほしいです。**私**は**ちゃん**
と**働**いていて、**お金**は**あります**ので、**ちゃんと**、**仏様**（**亡き母**）を
大切にしたいです。ですので、**蓮生寺**さんの**はっきり**とした、**法要**の
金額を**教えて**ほしいです。**お気持ち**では**困**ります」

はじめまして、**蓮生寺住職**の**尾上智和**と申します。**私**は**先日**、**ご縁**
を**いただく**方より、**お電話**で**このよう**な**お話**を**聞か**せて**頂**きました。

正直に**申し**まして、**このよう**な**話**というの**は**、**私**自身**が****お寺**育**ち**で
い**な**が**ら**、**確**かに**分**かり**に**く**い**と**感**じて**お**り、**私**が**以**前**に****勤**めて**い**た
広島や**大阪**の**お寺**でも、**私**自身、**何**度も**耳**に**し**て**お**りました。

そして**気**が**つ**けば、**昭和**から**平成**へ。そして、**新**しい**元号**が、**始**まる
ほどの**時**が**流**れ、**現**在では**老若男女**にか**か**わ**ら**ず、**お**手**持**ちの**携**帯**電**話
で**調**べ**れ**ば、**す**ぐ**に**「**お布施の料金表**」なる**もの**が**表**示**さ**れる**時**代と
な**り**ました。そこで**蓮生寺**として**も**、**こ**ち**ら**の**蓮生寺**寺**報**にて「**僧侶**
派遣」と**比**較**し**な**が**ら、**蓮生寺**が**い**つ**も****一**般**的**な**ケ**ースとして、**お**答**え**
さ**せ**て**頂**い**て**い**る**、**お**布**施**の**目**安**を**明**記**い**た**し**ま**した。

なお、**この**度**の**チャ**レ**ン**ジ**は、**改**革**な**どでは**な**く、**不**透**明**・**不**親**切**・
不明**瞭**からの**進**歩**と**い**う**こ**と**だ**け**で**あ**ります。また、**この**寺**報**の中**で**、
誤字**や**表**現**が**し**っ**く**り**こ**な**い**箇**所**が**あ**り**ま**し**た**ら**申**し**訳**あ**り**ま**せ**ん。
私の**ミ**ス**で**あ**り**ま**す**の**で**、**その**箇**所**は**飛**ば**し**て**い**た**だ**け**ら**ば**幸**い**で**す。

蓮生寺 住職 尾上智和

1. そもそも、お布施とは？	P. 4
2. 浄土真宗のご法事、ご葬儀	P. 5
3. 派遣会社「料金」 お寺「お布施」	P. 6
4. 2018年 主な僧侶派遣会社と料金表	P. 7
5. 派遣会社 料金表	P. 8
6. 蓮生寺、お布施の目安	P. 9
7. 蓮生寺は特別	P. 10
8. 僧侶派遣を経験して	P. 11
プロフィール	P. 12
9. ご葬儀とは、特別な時間です	P. 15
10. 「相場」と「お寺のタイプ」	P. 16
11. 蓮生寺 葬儀布施 目安表	P. 17
12. 葬儀寺でも派遣会社でもない「蓮生寺」	P. 18
13. ちゃんとしたという方は	P. 19
14. おすすめの葬儀社様	P. 20
15. 神戸という地	P. 21



お布施や

ご法事について

1 そもそも、お布施とは？

●僧侶が法要を営むことはビジネスではなく、あくまでも法施ほうせ（※1）

「葬儀での「お布施」は法要のお勤めへの対価ではなく、
あくまでも財施ざいせ（※2）であります」というのが本来の考え方です。

※1 法施ほうせ = 正しい仏法の教えを説き精神的な施おこなしを行うこと

※2 財施ざいせ = 仏教の教えに感謝を表し、施おこなす行いのこと

●浄土真宗本願寺派（お西）では

基本的には「法要のお勤め」以外に「お布施」は必要ありません。
もし、「戒名は？」と思われていても、浄土真宗では「戒名料」
という「お布施」は要りません。ちなみに「浄土真宗本願寺（お西）」
の場合は、「戒名」ではなく「法名」といいます。

但し「院号法名」と、呼ばれる「〇〇院 釋〇〇」の「〇〇院」を
お願いされる場合は、20万円以上が必要となります。

しかしこのように、お布施のこともありますが、蓮生寺では、お悩み
相談・仏事相談・大晦日の鐘など、無料で縁をいただけることも、沢山
あることなど、「お布施」とは「行い」であり「料金や対価ではあり
ません」と、いうところが特徴的なところと、いえるかもしれません。

● 浄土真宗本願寺派のご法事やご葬儀

先立たれた大切な方を偲ばせていただくなかで、今を生きる私自身が
仏法に出遇わせていただく縁とされます。

この世でいのちを終えられた先人方は、私に大切なことを教えてくだ
さいます。その一つが「生まれたものは必ず死にゆく」こと。これは、
何とも辛く厳しい現実です。しかし「いのちを終える」という悲しみを
悲しみだけで終わらせてしまえば、そこには、むなしさだけが残ります。

● 浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来

浄土真宗のご本尊である「阿弥陀如来」という仏さまは、「どのよう
ないのちも、その長短に関係なく、終えたそのあとに、尊い仏として
生まれさせる」と、誓われました。「死んで終わり」ではないのです。

様々な想いを抱く私たちに、「ただ辛く悲しいだけの、いのちには、
しない」と、呼びかけ続けてくださる阿弥陀如来とは、この命がある
間を非常に大切にしておられます。その浄土真宗の、スペシャルな
部分の教えを聴かせていただく場が、浄土真宗本願寺派の、ご法事や、
ご葬儀であります。

● はけんがいしゃ りょうきん たんじゆん きぎよう こじん りえき
派遣会社への料金は単純に企業（個人）の利益

それが、れんしょうじ ばあい 蓮生寺の場合ですと、お布施はぜんぐく ぜいむしょ とお しゅうきよう
法人の財としてくに かんり 管理されることになり、でんどう ふきようかつどう
伝道・布教活動のもと、
かくじつ にほん みらい かんげん
確実に日本の未来に還元されることとなります。その証拠がれんしょうじ
蓮生寺です。

● れんしょうじ と ちたてもの れんしょうじすべ しよゆうしゃ にほんこく
蓮生寺の土地建物など、蓮生寺全ての所有者は、100%が日本国
じゅうしよく だいひょうやくいん ふく こじん しさん
住職（代表役員）を含め、個人の資産は0%

おそ ひりつ てら こうべ ぜんこく てらさま
恐らく、この比率のお寺というのは、神戸はもちろん、全国のお寺様
みわた さが だ
を見渡してみても、なかなか探し出せないかもしれません。

なぜ れんしょうじ で き じんりよく
では何故、蓮生寺はこのような出来たのか？それは、これまでご尽力
もんとさまがた きも れきだい れんしょうじじゅうしよく しんねん
いただいた門徒様方のお気持ちと、歴代の蓮生寺住職の信念による
たまもの い かんたん こんなん てら たちば きゃっかんてき
賜物です。と、言うのは簡単、やるのは困難。お寺の立場から、客観的
れんしょうじ み と きほんとう しんねん きせき かくご
に蓮生寺を見た時には、本当にすごい信念と軌跡と覚悟です。

4 2018年 主な僧侶派遣会社と料金表

いちりつりょうきん

●一律料金

アマゾン（お坊さん便）	初回のみ 35,000 円 2回目以降45,000 円
てらくる	45,000 円

そうりよはけん とくちょう

●僧侶派遣の特徴

料金	お布施（おこない）ではなく、料金（対価）
個人契約	お寺ではなく、どこかの僧侶個人と一度きりの契約
ルール変更	毎年のようなルール変更
活動拠点	お寺ではなく、ビルのテナント

それら、ネット会社ということもあり、会社の実態が見えず、責任の所在が不明確で、歴史が浅いことなどから、私は僧侶派遣サービスを、勧めませんが、様々な事情により、ご利用させる際は、料金表などの内容確認をよくされてください。

● はけんがいしゃ りょうきん
派遣会社の料金

めいもく 名目	いちりつ りょうきん 一津 料金
しじゅうくにちほうよう どっきょう 四十九日法要の読経など	3万5千円・4万5千円
ひゃっかにちほうよう どっきょう 百ヶ日法要の読経など	3万5千円・4万5千円
いっしゅうきほうよう どっきょう 一周忌法要の読経など	3万5千円・4万5千円
さんかいきほうよう どっきょう 三回忌法要の読経など	3万5千円・4万5千円
しちかいきほうよう どっきょう 七回忌法要の読経など	3万5千円・4万5千円
しちかいきほうよういこう ほうよう どっきょう 七回忌法要以降の法要の読経	3万5千円・4万5千円
ほん どっきょう お盆の読経など	3万5千円・4万5千円
ひがんほうよう どっきょう お彼岸法要の読経など	3万5千円・4万5千円
のうこつほうよう どっきょう 納骨法要の読経など	3万5千円・4万5千円
かいはんほうよう どっきょう 開眼法要の読経のなど	3万5千円・4万5千円
しょうねぬ ほうよう どっきょう 性根抜き法要の読経など	3万5千円・4万5千円

はけんがいしゃ りょう
 派遣会社を利用される利便性としては、こうべ ふく とし ぶ
 神戸を含め都市部でしたら、
ちいき しゅうは かか 地域や宗派に関わらず「じょうき りょうきん上記の料金で、そうりよこじん どっきょう僧侶個人に読経などを契約で
けいやく
 きる」という認識で正解であるといえます。

6 ^{れんしょうじ ほうようふ せめやす}
蓮生寺、法要布施目安

● ^{れんしょうじ ふつじふ せめやす}
蓮生寺の仏事布施 「目安」

ほうよう 法要	めやす ～ 目安 ～
しじゅうくにちほうよう 四十九日法要	～ 3万5千円 ～
ひゃっかにちほうよう 百ヶ日法要	～ 2万円 ～
いっしゅうきほうよう 一周忌法要	～ 3万5千円 ～
さんかいきほうよう 三回忌法要	～ 3万5千円 ～
しちかいきほうよう 七回忌法要	～ 3万5千円 ～
しちかいきほうよう ごじゅうかいきほうよう 七回忌法要～五十回忌法要	～ 3万5千円 ～
はつほんほうよう 初盆法要	～ 3万円 ～
ほんほうよう お盆法要	～ 1万円 ～
ひがんほうよう お彼岸法要	～ 1万円 ～
しょうつきめいにちほうよう 祥月命日法要	～ 1万円 ～
のうこつほうよう 納骨法要	～ 3万円 ～
かいかん けんびしき ほうよう 開眼（建碑式）法要	～ 3万円 ～
しょうねぬ ふっこん ほうよう 性根抜き（仏抜）法要	～ 3万円 ～
ふつじそうだん なや そうだん 仏事相談・お悩み相談	むりよう 無料
おおみそか かね じよや かね 大晦日の鐘・除夜の鐘	むりよう 無料
れんしょうじじほう 蓮生寺寺報	むりよう 無料
ほうようじ ほんどうしようりょう 法要時の本堂使用料	むりよう 無料

※ あくまでも、^{めやす}目安でございますので、^{あんしん}ご安心ください。

●例えは、お布施が「100万円」という、お話

蓮生寺ではありえない話なのですが、私は昨年も一昨年も耳にしております。しかし、それはそれで、各お寺様の人件費、固定資産税や本山への懇志、納骨（墓地）などの設備投資、また、各種保険や、改修積み立て費や、布教活動費など、お寺を次の世代に渡していくために、そのお寺様や宗派によっては必要なことであると、私は考えています。それゆえに、先ほどの目安も「蓮生寺だけの特別」との、ご理解をよろしくお願ひします。

それといいますのも例えは、伝統仏教は、20宗派近くありますが、おおよその葬儀社様に「どこの宗派のお布施が1番低いですか？」と、尋ねられた際の、お答えは決まって「浄土真宗が1番やさしいです」と、言われています。その理由は、750年以上も変わらない「老若男女に関わらず、ただただ、なんまんだぶつ」と、このように、分かりやすい、教えだからこそ、沢山の方々にお支え頂くことができている、様々な宗派の中でも、お布施を1番やさしくすることができております。

さらに、同じ宗派のお寺様であっても、蓮生寺は信念のもと、駅から近く、小さく立派にしているお寺ですので、やはり「特別」であります。そのように、お布施というものは、地域性や各お寺様の運営方針により、細かく違いがありますので「この寺報はあくまでも蓮生寺専用」との、ご理解をよろしくお願ひします。

8 わたしじしん けいけん 私自身が経験してみました

● おおさかじだい さくねん ため じっさい そうりよ けいけん
大阪時代と昨年に「モノは試し」と実際に僧侶として経験してみ

そうりよはけん たいけん
僧侶派遣を体験してみました、
そちよく ざんねん ことば
率直に、「残念」という言葉しか、
で
出ませんでした。それといたしますのも、このビジネスの実態は、派遣
がいしゃ すべ けんり え か あ いちどかぎ どっきようしゃ
会社が全ての権利を得ている兼ね合いで「一度限り」の「読経者」と
「利用者」の関係になります。そして、僧侶側からすれば「次が無い
しよたいめん かたがた りようしゃ かた つぎ おな たら
初対面」という方々であり、また、利用者の方が「次も、同じお寺さん」
とおわれても、派遣会社が毎回、必ず両者の間に入る仕組みでありま
すので、互いが目の前にいながら、簡単なお約束も深いお話もできない、
なんとも不思議な空間になります。そのような、本来の姿とは程遠い
かんけいせい たい ふせ さっかく りようきん え
関係性に対して「お布施」と錯覚させて料金を得ていくシステムは、
ほんもの ふせ おこな し わたし ざんねん
本物の「布施という行い」を知る私としては残念でありました。

また、派遣サービスというシステムは、「僧侶」が不足すれば、成り
立たないため、派遣会社は「僧侶」を集めます。そして、お寺や僧侶の
ほんしつ はんぶん こま かた
本質は、半分がボランティアですので、困っている方がおられれば、と、
きょうりよく はけんがいしゃ こじん りえき ついきゅう
協力します。が、派遣会社（個人）の利益の追求であることがわかる
と、僧侶としては、協力ができなくなります。

しかし、様々なニーズがある現代ですので、これもまた1つの選択肢
かと私は思います。そのように私自身が実際に経験してみて、「布施
おこな たいか ちが じっかん い
の行い」と「対価」では、こんなにも違うものかと、実感できた良い
けいけん う りゆう こんてい
経験でした。なにはともあれ、このシステムが生まれた理由の根底には、
たら どりよくふそく わたしじしん わす つと
お寺の努力不足があります。それを私自身、忘れずに勤めてまいります。

＜蓮生寺＞プロフィール

宗名	浄土真宗
宗祖	親鸞聖人
ご開山	1173年5月21日（承安3年4月1日）（2018年-1173年=845年前）
ご往生	1263年1月16日（1263年-1173年=90歳）
宗派	浄土真宗本願寺派
本山	龍谷山 本願寺（西本願寺）
本尊	阿弥陀如来（南無阿弥陀仏・なもあみだぶつ）
聖典	「浄土三部経」：『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿弥陀経』
教義	阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏（なもあみだぶつ）を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する
生活	親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の、み心を聞き、念仏を唱えつ、常にわが身を振り返り、慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱 占いなどにたよることなく、ご恩報謝の生活を送る。強く明るく生き抜きます
寺院名	浄土真宗本願寺派（西） 蓮生寺
寺院名 由来	「蓮」池地区で「生」まれたお「寺」
住所	〒653-0842 兵庫県神戸市長田区水笠通4-4-12
電話番号	078-611-7508【0120-365-154（365日 行こうよ）】
宗教法人登録	昭和27年
尾上智和 住職就任	平成27年
住職の住まい	蓮生寺
納骨堂	ございませんが、納骨室はございます
駐車場	本堂の隣に2台分のみ。コインパーキングは本堂の正面など近くにあります
政治活動	一切行いません。寺の本業は「仏縁」をお取次ぎさせていただくことですので
寄付・年会費・檀家制度	過去現在ともにありません。初めての方でも安心して、お声かけ下さい
郵便局寺報	限定2000冊で、長田・新長田南・山下・板宿郵便局と蓮生寺BOXにて、ご自由にお取りいただけます。板宿郵便局は青木葬祭様の認知に役立てればと、今回限定での考えであります。次号は、2019年3月中旬の配布開始を予定します

< 蓮生寺住職 > プロフィール

本名	尾上 智和 (おのえともかず)
生年月日	1980年7月31日
出生地	アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島(1歳時帰国/22歳迄2重国籍/現在日本国籍)
出身・育ち	兵庫県 西宮市
中学校	報徳学園中学校 (バスケットボール部 背番号6)
僧侶資格	得度 (僧侶資格取得)
高校	報徳学園高校(少林寺拳法部 二段 兵庫県優勝) 昨年、報徳学園野球部の新監督に大角監督が就任しましたが、彼と私は同じクラスで[おおすみ][おのえ]と、私の前に座っていた友人ですので、ニュースで知った時は驚きました。体に気をつけて頑張ってください
大学	龍谷大学文学部仏教学科 (龍谷大学 海外交流委員会 委員長)
勤式指導所	本願寺内・読経作法修練所
住職資格	教師資格取得 (住職課程)
法務員①	広島県呉市倉橋島 法専寺
法務員②	大阪府大東市 正行寺
蓮生寺との縁	本願寺が縁。親族関係はありませんが、蓮生寺初代住職は戦前に、私と同じ広島のお寺で法務員をされていました。本願寺派のお寺は全国約1万ヶ寺ありますので、その中で、同じお寺様での経験があったということは、たまたまにしても、不思議な縁に驚きました
タバコ・お酒	タバコは読経、お酒は急な法務のため、たしなみません
好きな言葉	字がはびれば教へはすたる・舟に乗るな、潮にのれ
最近の服装	ユニクロ・NIKE (浄土真宗には作務衣がありませんでして、足もいたわりながら)
趣味	スポーツ観戦・東京や地方、島を歩くこと
よく行く場所	西本願寺・築地本願寺 (年2回前後、行くようにしています)
行きたい場所	徳之島・与論島 (こちら2島の前後の島までは行けていますが) ※駅の蓮生寺看板は、大阪時代に1人旅をした島根県「隠岐の島」の隣の「中の島」という島で、勉強合宿で来ていた東京大学の大学生たちと出会ったことがキッカケです
法務を行う姿勢	おそらく、私は鬼の如く厳しいです。やはり、お布施には、涙が詰まっています。と、言いすぎても、次の世代の人材がなくなるので、難しいところですが・・・
総お参り件数	葬儀千件・法事5千件・月参り2万件以上のご縁をいただき、お育ていただきました。 お一人お一人、素晴らしい方であり、ご縁をいただけたことに、感謝しております

ご葬儀・お葬式について

めいじ たいしょう しょうわ へいせい
明治・大正・昭和・平成

それらすべての時代で、
布施の相場は違います。

それだけ、うつろいゆくものこそが

布施の定義ですので、

ここで明記させていただくものは、

あくまでも

「今」の「蓮生寺」のみの話であり、

たとえ、宗派的に近くとも、

たとえ、距離的に近くとも、

たとえ、時代が近くとも、

「今」の「蓮生寺」以外のところでは、

この通りではないことの

ご理解をよろしくお願いします。

9 そうぎ とくべつ しかん ご葬儀とは、特別な時間であります

● ひとり ひとり ちが で さいご お一人お一人、違いが出る最期

だれもこなくていい	たくさん <small>ひと き</small> の人に来てほしい
<small>てら</small> お寺でしたい	ホールでしたい
<small>こうみんかん しゅうかいじよ</small> 公民館・集会所がいい	<small>そうぎ</small> 葬儀（セレモニー）だけ
<small>そうぎ</small> 葬儀のあともちゃんとしたい	<small>かぞくさま じょうきよう</small> ご家族様の状況
<small>けいざいてき そな</small> 経済的な備え	<small>こさまがた しんぞくさま けいざいじょうきよう</small> お子様方や親族様の経済状況
<small>しゃかいてき つな</small> 社会的な繋がり	<small>ちいきてき つな</small> 地域的な繋がり
<small>おや こ</small> 親（子）のことは知らない	<small>おや こ たいせつ</small> 親（子）だからこそ大切にしたい

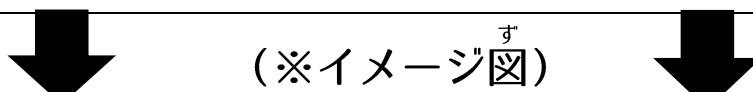
● わ き おも ふ せ ほんしつ 「割り切れない想い」というものが、お布施の本質にはあります

こちらは、一人ひとり いのちの命がなくなる場面ばめん いちだいし いみ もで、一大事な意味を持ち、ご法事ほうじとは話はなしの質しつが違ちがう事ことの、ご理解りかいがまず必要ひつようであります。また、私わたしは葬儀そうぎ布施ふせを聞きかれた場合ばあいに、第一だいいちゆうせん優先ちいきにしているところは、「地域の相場ちいき」です。その、「地域の相場ちいき」とは、「葬儀社そうぎ様が、喪主もしゅ様や当家長とうけ様より、お寺てらへのお布施ふせについてご質問しつもんされたときに、おおよその範囲はんいで伝えられる宗派しゅうはごとのお布施ふせ」です。

そこについても、私わたしのこれまでの経験けいけんじょう上てら、お寺てらのタイプたいぷによっては、相場そうばの違ちがいがあるように思おもいますので、私わたしが感かんじることを明記めいきします。

10 「相場」と「お寺のタイプ」

てら お寺のタイプ	とおよその特徴
せいとうは 正統派	じゅうしよく てら す わりいじょう かくりつ じゅうしよく そうぎ 住 職 がお寺に住み、9割以上の確率で住 職 がご葬儀の すべ ほうよう どうし つと てら れんしょうじ 全ての法要で導師を勤めるお寺。蓮生寺のタイプ
いっばんてき 一般的	じゅうしよく すべ ほうよう どうし そうぎ ほうよう 住 職 が全ての法要で導師をするのではなく葬儀の法要 を、ご身内の僧侶でまかなわれるお寺。一般的なお寺
そうぎでら 葬儀寺	じゅうしよく てら す じゅうしよく そうぎ ほうよう 住 職 がお寺に住まず、住 職 がご葬儀の法要に、ほぼ こ 来られない。葬儀の法要を雇われている僧侶（法務員） そうぎ ほうよう やと そうりよ ほうむいん が複数人で、ローテーションして勤めていくお寺
そうりよはけんがいしゃ 僧侶派遣会社	かつどうきばん も さまざま かんてん ふ し き 活動基盤を持たず、様々な観点から、なんとも不思議な 葬儀となりますので、私はお勧めできません。



(※イメージ図)

	まくらぎょう つ や (枕経)通夜	ほんそう 本葬	かそうじょう 火葬場	しよなかのか かんこつ 初七日・還骨
せいとうは 正統派	じゅうしよく 住 職	じゅうしよく 住 職	じゅうしよく 住 職	じゅうしよく 住 職
いっばんてき 一般的	しんぞく そうりよ 親族の僧侶	じゅうしよく 住 職	じゅうしよく 住 職	しんぞく そうりよ 親族の僧侶
そうぎでら 葬儀寺	ほうむいん 法務員A	ほうむいん 法務員B	ほうむいん 法務員C	ほうむいん 法務員D

このように、同じお寺でも様々なタイプがあり、ここ神戸に限った、浄土真宗本願寺派の葬儀布施は、蓮生寺のような最もクレームの少ない正統派のお寺から、全てを含めて30万円～18万円のご案内となっているように思います。この度は、僧侶派遣の葬儀はお勧めできないので、派遣会社の料金表を載せない方針とさせていただきます。

●「お気持ち」でもあり「明瞭化」でもあり「どちらでも」です

ほうよう 法要	いっばんてき 一般的(ちゃんとした方)	ほんらい 本来	こんきゅう 困窮されておられる方
つやまぐらきょう お通夜(枕経)	○	じゅう 自由	×
そうぎ 葬儀	○	じゅう 自由	△(衣など、たしょうかんいてき 多少簡易的)
かそうじょう 火葬場	○	じゅう 自由	△
しよなのか かんこつ 初七日 還骨	○	じゅう 自由	×
そうぎふせめやす 葬儀布施(全て)目安	～ 25万円 ～	きも お気持ち	～なにもなくとも～

●蓮生寺は最も信頼いただけるタイプのお寺ですので、お布施も高額なところからのご案内になっているように思います

蓮生寺は、正統派のお寺であり、よほどのことが無い限りは、全ての法要を住職が責任を持って行い、お家の方々のご意向を最大限に聞かせて頂けるお寺ですので、お急ぎの時でも「蓮生寺で」と言って頂ければ幸いです。また、地域性や、歴史、境内の広さや駐車場や納骨堂、宿泊設備の有無などにより、ご案内の「相場」と言われる部分も変化してくると、思います。ちなみに、浄土真宗本願寺派では「1文字いくら」という、文化はございません。「法名 釋〇〇」という、ご法名は、ご葬儀の際に、お寺様より、無条件にて、お渡しされますので、ご安心ください。良きご縁があることを願っております。

●「わたし 私たちは、な 亡き父（母）の、さいご 最期のために、ちゃんとした、ちゃんとした、そうぎ ご葬儀がたく、そうぎしゃ 葬儀社にお寺を、しょうかい 紹介していただき、せいとうは 正統派のお寺ほどの、そうぎふせ 葬儀布施をさせていただいたのにもかかわらず、そうぎ 葬儀では、ほうよう 法要の度、ぼう にコロコロと、か お坊さんが変わり、いちぞく 一族として、たいへん 大変ショックでした。

これからはれんしょうじ 蓮生寺さんでおねがいしたいです」

じっさい 実際、このような痛切なるお気持ちでれんしょうじ 蓮生寺に来られる方がかた 後を絶ちません。それといいますのも例えば、れんしょうじ 蓮生寺のように、じゅうしょく 住職がお寺にす 住み、じゅうしょく 住職がそうぎ 葬儀の、えん 縁にあ 遇わせていただき、じゅうしょく 住職がそうぎご 葬儀後も、いちぞくさま ご一族様のまも フライバシーを守り続け、いちぞくさま ご一族様のおこえ 声を聞き続けられるような、てら お寺であれば、ご その後のいちぞくさま ご一族様へのプラスとなれます。

しかし、じゅうしょく 住職がお寺にてら 住んでいない、じゅうしょく 住職がそうぎしき 葬儀式の、すべ 全てのほうよう 法要に来ない、じゅうしょく 住職とそうぎご 葬儀後もあ 会えない、そうぎこう 葬儀以降のほうよう 法要に来られるぼう 坊さんもまいかいちが 毎回違う。など、このようなお寺は、てら 葬儀中も、そうぎちゅう 葬儀後も、そうぎご 葬儀後も、もしゅ 喪主さまのかお 顔がた 立たず、そうぎとうじつ 葬儀当日も、とうけさまがた 当家様方がこんわく 困惑されることになるケースとしてげんざい 現在もそんざい 存在しています。

それら、とうけさま 当家様からそうぎしゃさま 葬儀社様へのおお クレームがおお 多くなる分、ふん 相場を多少、さ 下げやすいというメリットがあるかもしれないものの「ちゃんとしたい」というかたがた 方々にはこた 応えられません。それ故に、ゆえ やがてはそのような「たか 高かろう悪かろう」のそうぎ 葬儀にお 於けるひがい 被害が1つでもへ 減り、せいとうは 正統派・いっばんてき 一般的なてら お寺がかつやく 活躍し、てら お寺がふたた 再び、あんしん 安心して、しんらい 信頼していただけるそんざい 存在となれるようななが 流れを作ればと、わたしじしん 私自身はねが 願っております。

13 ^{ねが} ^{でら} 願い寺がなく「ちゃんとしたい」という方は ^{かた}

● ^{そうぎ} ^{たんとうしゃ} 葬儀担当者から ^{てら} ^{しょうかい} お寺を紹介される際、^{さい} ^い ^か ^{てん} ^{かくにん} 以下の2点をご確認ください

①	^{てら} ^{じゅうしょく} そのお寺の住職は、 ^{てら} ^す お寺に住んでいますか？
②	^{そうぎ} ^つ ^{やしき} ^{そうぎしき} ^{かそうじょう} ^{しょなの} ^{かかん} ^{こつほう} ^{よう} ご葬儀【通夜式・葬儀式・火葬場・初七日還骨法要】 ^{すべ} ^{ほうよう} ^{じゅうしょく} ^き 全ての法要に、住職が来てくれますか？

● ^{そうぎ} ^{たんとう} 葬儀担当の方の ^{かた} ^{こた} ^{てん} 答えが2点とも「いいえ」「わかりません」の場合

^{たんとうしゃ} ^{かた} ^な ^{ちち} ^{はは} 担当者の方に「亡き父（母）のため、^{じゅうしょく} ^き 住職が来てくれるお寺の ^{てら} ^{しょうかい} 紹介を、^{ねが} ^{もう} お願いします」と、申してください。そうしましたら、あまり、^{きんがく} ^{さい} ^な ^{せいとうは} ^{いっぱんてき} ^{てらさま} ^{しょうかい} 金額の差異が無く、正統派や一般的なお寺様を紹介していただけます。

それといいますのも、^{そうぎ} ^{おこな} 葬儀を行うにあたって、^{もっと} ^{いそ} 最も急ぐポイントは、^{てら} ^ぎ お寺決めではなく、^{しきじょうぎ} ^{かそうじょう} ^{じかん} ^き 式場決めでなく、火葬場の時間を決めることです。 ^{かそうじょう} ^{じかん} ^き ^{てらさが} ^{いそ} ^{ひつよう} ですので、火葬場の時間さえ決まれば、お寺探しは急ぐ必要がなく、^{れんしょうじ} ^{ばあい} ^{とうじつ} ^{たいおう} 蓮生寺の場合でしたら当日でも対応できることもあります。そのように、^{てら} ^{しょうかい} ^{はなし} ^{さい} ^{あせ} ^{そうぎたんとうしゃ} ^{かた} ^お 「お寺の紹介」の話になった際は焦らずに、葬儀担当者の方と、^お ^つ ^{はなしあ} ^{ばん} ^{じぜん} 着いて、お話を合をされてください。それでも、1番いいのは、事前に ^{てら} ^{さが} ^{しょうじき} ^{もう} ^{てら} ^{みわ} お寺を探されることですが、正直に申しまして、お寺のタイプの見分け ^{ふかのう} ^{むすか} ^き ^{てらさま} は、不可能なほど難しいです。それゆえにもし、気になられるお寺様が ^{うわさ} ^{はいじょ} ^{せいかく} ^{じょうほう} ^{たしょう} ^{つた} ありましたら、噂は排除し、正確な情報のみ、多少はお伝えでき ^{れんしょうじ} ^{きがる} ^{そうだん} ことがあるかもしれませんので、蓮生寺まで、お気軽にご相談ください。

14 わたし しゅかん あくまでも私の主観ですが、そうぎしゃ おすすめの葬儀社

● わたし おも 私いが思う、そうぎしゃさま 良いお葬儀社じょうけん様の2つの条件

①	<small>はこ</small> 箱 <small>ひと</small> （ホール）よりも人 <small>そうぎしゃさま</small> （葬儀社 <small>じんざい</small> 様の人材） <small>たいせつ</small> が大切
②	<small>じしゃ</small> 自社 <small>そと</small> ホールの外 <small>いえ こうみんかん</small> （家や公民館） <small>そうぎ つよ</small> での、ご葬儀の強さ

● わたし けいけん 私しゃが経験してきた30社100ホール1000件以上のご葬儀経験と、

れんしょうじ蓮生寺が、そうぎしゃさま どの葬儀社さんか様の傘下にも入はいっていない生きっすい粋のお寺てらで

あるからこそ、じゅんすい純粹に、そうぎしゃさま おすすめの葬儀社さが様を探できすることが出来ました

わたし れんしょうじ き私ねんめが蓮生寺こうべしなに来て5年目そうぎしゃさまということで、ひと神戸市内の葬儀社ひと様を一通り

けいけん経験そうぎしゃさまさせていただき、葬儀社なや様探して悩もんまれている門徒やく様の、お役たに立

てればと探した結果、わたし私すすが、お勧そうぎしゃさまめできる葬儀社しゃ様が1社しゃございました。

す まく おおたちょう須磨区大田町あおきそうさいにあります「青木葬祭」さま様さまがいいですね。

やはり、そうぎ きほん葬儀の基本は「家いえでの葬儀」そうぎです。ですので、いくら、箱はこ（ホール）が、うつく美しくとも、「家」いえで、しっそうぎかりとしたご葬儀できが出来るだけのスキルや、おもてなし、たいおうりよく対応力なが無ければ、クレームふが増えます。

また、そと つよ外じんざいに強いじんざいということは、人材ひつようもそれなりの人材じんざいが必要です。

そのように、たいせつ大切な方かたの人生最期じんせいさいごの時間じかんは、後悔こうかいしても取り返とせず、また、いちぞくさま一族あら様の新たなスタートきをつまくばずかないよう、気を配きられるのも大切な生き方たいせつかもしれないかも。もちろん、ほか他の葬儀社そうぎしゃさまも素晴らしいの

で、きかい機会ふくすうがありましたら複数そうぎしゃさまの葬儀社み様まわを見て回まわられてください。

◆ あおきそうさい青木葬祭 す まく おおたちょう須磨区大田町3-1-24 0120-020307

●神戸の地 この地での仏縁「なんまんだぶつ」

ここ、神戸の地は、何百年と農業・林業・漁業などの第一次産業が行われてきた地ではなく、次々と人々が流動する、製造と観光の地でありますので、この地で生まれて、この地で亡くなる方は、多くありません。

しかし、命をいただいたからには、どこにいても、誰であっても、必ず「いのちの最期」があります。どうぞこの機会に、人生に於ける、1番大切な縁である仏縁に遇わせていただきましょう。なんまんだぶつ。

●長田という地、私が来た理由

私はこの地に来る前に4ヶ寺のお寺様から跡取りの話があり、全てを断り、私は長田区にきました。それはなぜか??それは、日本の未来のためです。それといたしますのも、「長田のお寺」といえば「震災で焼け出された方からも寄付を集めている」という悪評を、私が学生をしていた当時、悲しい事実として京都の地で耳にしていました。それら、長田のお寺は、地域の方々からの信用を失っている可能性や、地域としての人口減少など、お寺として決して楽な状況ではないことも理解しておりました。それでも、日本の未来のために、長田は必要な地です。そしてそのために、蓮生寺こそ、生きなければいけないお寺である。

その想いで私はこの地に来ました。

平成30年 蓮生寺

仏事の行い方と、行事予定

●2018年を基準きじゆんにしております

年回忌 <small>ねんかいぎ</small>	お亡くなり <small>な</small> になられた年 <small>とし</small>
1周忌 <small>しゅうき</small>	平成29年 <small>へいせい ねん</small> <2017年 <small>ねん</small> >
3回忌 <small>かいぎ</small>	平成28年 <small>へいせい ねん</small> <2016年 <small>ねん</small> >
7回忌 <small>かいぎ</small>	平成24年 <small>へいせい ねん</small> <2012年 <small>ねん</small> >
13回忌 <small>かいぎ</small>	平成18年 <small>へいせい ねん</small> <2006年 <small>ねん</small> >
17回忌 <small>かいぎ</small>	平成14年 <small>へいせい ねん</small> <2002年 <small>ねん</small> >
25回忌 <small>かいぎ</small>	平成6年 <small>へいせい ねん</small> <1994年 <small>ねん</small> >
33回忌 <small>かいぎ</small>	昭和61年 <small>しょうわ ねん</small> <1986年 <small>ねん</small> >
50回忌 <small>かいぎ</small>	昭和44年 <small>しょうわ ねん</small> <1969年 <small>ねん</small> >

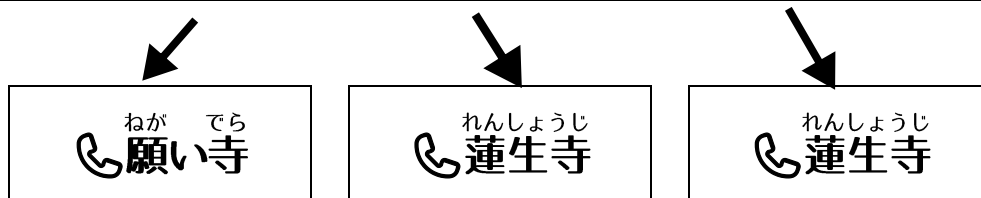
※23回忌・27回忌がこれまでの主流しゅりゆうでしたが、

25回忌が、最近さいきんでは主流しゅりゆうになりつつあるように私は感じわたし かんてしております。

いちぞくさま しゅうきょうしゅうは かくにん
一族様の宗教宗派の確認



Q. 願い寺はありますか？

はい・いいえ・分からない



いちぞくさま のちのち かんが こんきよ あんない
● 一族様の後々のことも考え、根拠あるご案内をいたしております

れんしょうじ でんわ ふつじ
蓮生寺にお電話いただきましても「いきなり仏事」ではありません。
れんしょうじ こんりゅうらい さいゆうせん こじんさま な あと
蓮生寺は建立以来、最優先はあくまでも、故人様が亡くなられた後の、
いちぞくさま へいおん あんたい ゆえ なに なん れんしょうじ
ご一族様の平穏であり安泰です。それ故に「何が何でも蓮生寺」
などではなく、お話を聞かせていただくことを大切にしております。

●   蓮生寺 0120-365-154 <24時間365日対応>

すべてのお電話より、おかけいただけます。もちろん、相談料も
でんわだい むりょう いちごいちえ えん たいせつ て も
電話代も無料であり、一期一会の縁を大切にしておりますので、お手持
ちの携帯電話などで、いつでもおかけください。縁ある方々を通して、
いま かんしゃ でき ば つく とも さき
「今」に感謝が出来る場を作られ、なんまんだぶつと共に、この先の
じんせい い じんせい じんせい れんしょうじ
人生を生きていく人生もいいものです。よりよい人生を蓮生寺とともに。

ほうじ ご法事について

●ほうじ なんかいき 法事は何回忌まで？

このテーマにつきましては、ケースバイケースですが、^{わたし}私^ががこれまで
に5千件以上のご縁^{せんけんいじょう}いた^{えん}た^{えん}だ^{えん}き^{えん}な^{えん}が^{えん}ら、^{かん}感^{かん}じ^{かん}た^{かん}こ^{かん}と^{かん}は、^{こじんさま}故^こ人^{じん}様^{さま}の^{きょうだい}ご^{きょうだい}兄^{きょうだい}弟^{だい}
(^{しまい}ご^{かた}姉^{げんき}妹^{ほうじ})^{かた}の^{しゅっせき}方^{しゅっせき}が^{しゅっせき}元^{しゅっせき}気^{しゅっせき}で、^{しゅっせき}法^{しゅっせき}事^{しゅっせき}に^{しゅっせき}出^{しゅっせき}席^{しゅっせき}で^{しゅっせき}可^{しゅっせき}能^{しゅっせき}な^{しゅっせき}る^{しゅっせき}状^{しゅっせき}況^{しゅっせき}で^{しゅっせき}あ^{しゅっせき}る^{しゅっせき}か^{しゅっせき}?^{しゅっせき}と^{しゅっせき}い^{しゅっせき}う^{しゅっせき}の^{しゅっせき}
が、^{めやす}1^{めやす}つ^{めやす}の^{めやす}目^{めやす}安^{めやす}と^{めやす}な^{めやす}る^{めやす}か^{めやす}も^{めやす}し^{めやす}れ^{めやす}ば^{めやす}い^{めやす}せ^{めやす}ん。元^{げんごうべつ}号^{げんごうべつ}別^{げんごうべつ}で、^{げんごうべつ}お^{げんごうべつ}お^{げんごうべつ}ま^{げんごうべつ}か^{げんごうべつ}な^{げんごうべつ}変^{げんごうべつ}化^{げんごうべつ}を、^{げんごうべつ}
^{しめ}示^{しめ}さ^{しめ}せ^{しめ}て^{しめ}い^{しめ}た^{しめ}だ^{しめ}き^{しめ}ま^{しめ}し^{しめ}た。私^{わたし}の^{わたし}主^{しゅかん}観^{しゅかん}で^{しゅかん}あ^{しゅかん}り、^{しゅかん}決^{しゅかん}ま^{しゅかん}り^{しゅかん}な^{しゅかん}ど^{しゅかん}で^{しゅかん}は^{しゅかん}あ^{しゅかん}り^{しゅかん}ま^{しゅかん}せ^{しゅかん}ん。

げんごう 元号	じだいはいけい おおまかな時代背景	へいきん ねんかいき 平均 年回忌
しょうわ 昭和	にんきょうだい 10人兄弟でも、 ^あ 当 ^{まえ} たり ^{まえ} 前 ^{まえ} の ^{まえ} 時 ^{まえ} 代 ^{まえ} 。世 ^せ 界 ^{かい} 大 ^{たい} 戦 ^{せん} な ^な ど ^な で ^な 若 ^{わか} く ^{わか} に な ^な 亡 ^な く ^な な ^な ら ^な れ ^な た ^な 方 ^な が ^な 多 ^な く ^な お ^な ら ^な れ、 ^{かた} 見 ^{かた} 送 ^{おお} ら ^{おお} れ ^{おお} た、 ^み 沢 ^み 山 ^{おく} の ^た ご ^{きょうだい} 兄 ^{きょうだい} 弟 ^{だい} に ^よ っ ^て 、 ^{なんじゅうねん} 何 ^{なんじゅうねん} 十 ^{なんじゅうねん} 年 ^{なんじゅうねん} と、 ^{ほうじ} ご ^{さき} 法 ^{さき} 事 ^{さき} が ^{さき} 支 ^{さき} え ^{さき} ら ^{さき} れ ^{さき} ま ^{さき} し ^{さき} た	かいき ぜんご 50回忌 前後
へいせい 平成	へいきんふたりきょうだい 平均2人兄弟。80歳でも若 ^{わか} い ^{わか} 時 ^{わか} 代 ^{わか} 。残 ^{のこ} ら ^{のこ} れ ^{のこ} た ^{のこ} ご ^{きょうだい} 兄 ^{きょうだい} 弟 ^{だい} の ^{かた} 方 ^{かた} も、 ^{かいき} 7 ^{ぜんご} 回 ^{ぜんご} 忌 ^{ぜんご} 前 ^{ぜんご} 後 ^{ぜんご} で ^{ぜんご} 高 ^{こう} 齢 ^{れい} に ^に な ^に ら ^に れ、 ^{にゅうたいいん} 入 ^{にゅうたいいん} 退 ^{にゅうたいいん} 院 ^{いん} な ^{じょうきょう} ど ^{じょうきょう} の ^{じょうきょう} 状 ^{じょうきょう} 況 ^{じょうきょう} に ^も も	かいき ぜんご 7回忌 前後
しんげんごう 新元号	きょうだい 兄弟の ^{こえ} 声 ^{へいせい} が ^{すく} 平 ^{すく} 成 ^{すく} よ ^{すく} り ^{すく} も ^{すく} 少 ^{すく} な ^{すく} く ^{すく} な ^{すく} る ^{すく} な ^{すく} ど、 ^{かた} 「 ^{かた} さ ^{かた} れ ^{かた} な ^{かた} い ^{かた} 方 ^{かた} は ^{かた} さ ^{かた} れ ^{かた} ない」 ^{かた} 「 ^{かた} さ ^{かた} れ ^{かた} る ^{かた} 方 ^{かた} は ^{かた} さ ^{かた} れ ^{かた} る」。自 ^{じゆうど} 由 ^{じゆうど} 度 ^{じゆうど} が ^ま さ ^ま ら ^ま に ^ま 増 ^ま す ^ま 見 ^み 込 ^み み	かいき ぜんご 3回忌 前後

れんしょうじ もんとさま こじんさま きょうだい かか
蓮^{れん}生^{しょう}寺^じの^{もん}門^と徒^{さま}様^{さま}は、^{こじんさま}故^こ人^{じん}様^{さま}の^{きょうだい}ご^{きょうだい}兄^{きょうだい}弟^{だい}に^{かか}関^{かか}わ^{かか}ら^{かか}ず、^{かいき}50^{かいき}回^{かいき}忌^{かいき}を^{かいき}さ^{かいき}れ^{かいき}る^{かいき}な^{かいき}
ど、^{ふつう}普^{ふつう}通^{ふつう}の^{ふつう}こ^{ふつう}と^{ふつう}で^{ふつう}あ^{ふつう}り^{ふつう}ま^{ふつう}す。ま^{ちが}た、^{みかた}違^{ちが}う^{みかた}見^み方^{かた}で、^お終^くわ^きり^き(^く区^き切^きり)^きと^きい^き
う^き気^き持^もち^もで、^{かた}そ^{さいご}の^{ほうじ}方^{ほうじ}の^{ほうじ}最^{さいご}後^{さいご}の^{さいご}ご^{さいご}法^{さいご}事^{さいご}を^{さいご}さ^{さいご}れ^{さいご}る^{さいご}こ^{さいご}と^{さいご}も、^{いちぞくさま}一^{いちぞくさま}族^{いちぞくさま}様^{さま}と^{たいせつ}し^{たいせつ}て^{たいせつ}大^{たいせつ}切^{たいせつ}
な^{ふしめ}節^{ふしめ}目^{ふしめ}か^{ふしめ}と、^{わたし}私^{わたし}は^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}て^{かんが}お^{かんが}り^{かんが}ま^{かんが}す。な^{そうだん}に^{そうだん}ご^{そうだん}と^{そうだん}で^{そうだん}も、^{そうだん}ご^{そうだん}相^{そうだん}談^{そうだん}く^{そうだん}だ^{そうだん}さ^{そうだん}い。

● ほんどう 本堂にての ほうよう 法要

<small>にちじ</small> 日時	<small>かいしきじかん</small> 開式時間	<small>ほうようめい</small> 法要名	<small>がいよう</small> 概要
<small>まいつき</small> 毎月 <small>だい にちようび</small> 第1日曜日	<small>じ かいしき</small> 9時開式	<small>にちようまい</small> 日曜参り	<small>つきめいにち</small> 月命日 や <small>しょうつきめいにち</small> 祥月命日 の方 <small>かこちよう</small> は、過去帳 (<small>いはい</small> お位牌) を <small>じさん</small> ご持参いただき、 <small>まい</small> お参り ください
5月6日(日)	<small>じ かいしき</small> 14時開式 <small>らいねん</small> (来年より) <small>じ かいしき</small> 10時開式	<small>えいたいきょうほうよう</small> 永代経法要 ならびに <small>しゅうそごうたんえ</small> 宗祖降誕会	<small>えいたいきょう</small> 永代経 の <small>こんし</small> 懇志は、 <small>えいたい</small> 永代に わたって、 <small>じいん</small> 寺院で <small>どっきょう</small> 読経 が なされることを <small>ねが</small> 願う <small>こころ</small> お心 と、 <small>しんらんしょうにん</small> 親鸞聖人 の <small>たんじょう</small> ご誕生 を <small>いわ</small> お祝いする <small>ほうよう</small> 法要
11月4日(日)	<small>じ かいしき</small> 14時開式 <small>らいねん</small> (来年より) <small>じ かいしき</small> 10時開式	<small>ほうおんこうほうよう</small> 報恩講法要	<small>しんらんしょうにん</small> 親鸞聖人 の <small>めいにち</small> ご命日にあた って、 <small>あみ</small> 阿弥陀如来 の <small>ほんがん</small> 本願 を <small>き</small> 聞き <small>あし</small> ひらき、 <small>あじ</small> 味わいを <small>ふか</small> 深めさせて <small>ただく</small> いただく、 <small>しんしゅうもんと</small> 真宗門徒 にとって <small>いちばんおお</small> 一番大 <small>ほうよう</small> きな法要です。また、ご <small>きょうりよく</small> 協力 <small>ただける</small> いただける方 の <small>おふくまい</small> み、御佛供米 の <small>きょうりよく</small> ご協力 を <small>ねが</small> お願いしております

●お盆法要 < 8月 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	⑬	14	15			

●「〇印」9時開式・10時開式

●事前連絡：必要ありません。

●5分ほど前には、過去帳（位牌）をお持ちの上、お越してください

法要終了後に過去帳（お位牌）1つにつき、1つの蓮生寺特製「和ろうそく」を贈らせていただきます。また、過去帳（お位牌）が無い方も、お声かけください。そして、お手にされた「和ろうそく」は、お盆期間中にご自宅の、お仏壇や、供養棚などでお使いいただければ幸いです。今年も仏縁に感謝ができるお盆にしていきたいと思います。

また、出欠確認などはなく、蓮生寺が初めての方も、お参りいただけますので、ご質問などがあれば、お気軽にお電話ください。



な ん ま ん だ ぶ つ

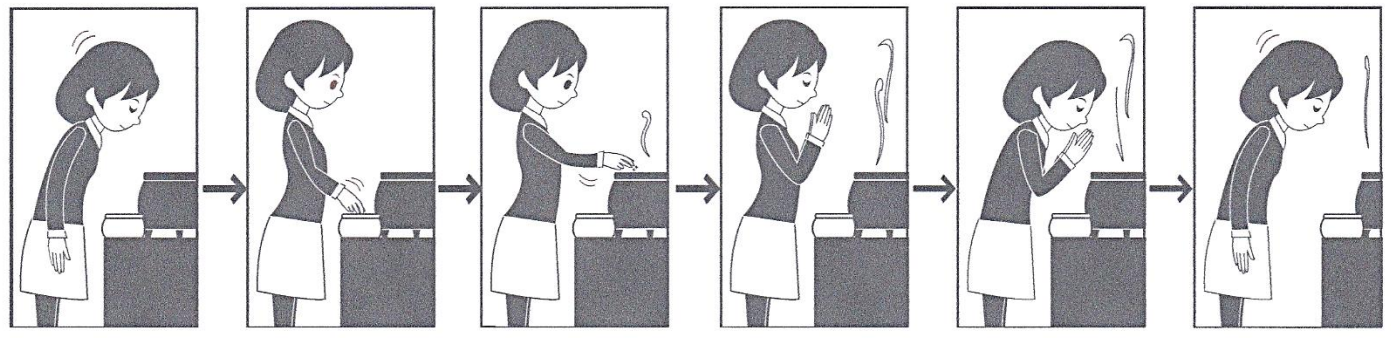
How to Offer Incense

イラスト入りで分かりやすい！

焼香の作法

浄土真宗本願寺派 (お西)

ご本尊に一礼 香をつまむ 香炉にくべる ※1回のみ 合掌 礼拝 一礼して退出



※香をつまんだら、押し頂かず（顔や額に持っていかに）
1回だけ 香炉に入れます。

※合掌とは、胸の前で手を合わせ、念仏を称える事です。

焼香とは

仏前で香を焼いて供養することを目的とした、清浄な心身で御参りをするための大切な作法と考えられています。

ちゅうしゃくばんほんぶん
【註釈版本文】

しょうにんいちりゅう ごかんげ
聖人一流の御勸化のおもむきは、

しんじん ほん そうろ
信心をもって本とせられ候ふ。

そのゆゑは、もろもろの雑行ぞうぎょうをなげすて、

いっしん みだ きみょう ふかしぎ がんりき
一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として、

ぶつ おうじょう じじょう
仏のかたより、往生は決定せしめたまふ。

その位くらいを「一念いちねん突起ぼつき入正定しゅうじょうしゆ聚」と釈しゃくし、

そのうへの称名しょうみょう念仏ねんぶつは、

にょらい おうじょう さだ ごおんほうじん ねんぶつ
如来わが往生おうじょうを定さだめたまひし御恩報ごおんほうじん尽ねんぶつの念仏と

こころうべきなり。

あなしこ、あなかしこ。

じょうどしんしゅう おし かんじん ごぶんしょう か
浄土真宗の教えの肝心かなめは、御文章に書いてあります

い やく
【意 訳】

しんらんしょうにん ひら じょうどしんしゅう すす しゅし
親鸞聖人によって開かれた浄土真宗でお勧めくださる趣旨は、

しんじん こんぽん
信心を根本とされています。

そのわけは、さまざまな^{ぞうぎょう}雑行をやめて、

ただ一心に^{いつしん あみだによらい}阿彌陀如来におまかせすると、

こころ おも ことば つ ほんがん ちから
心で思い言葉で尽くせない本願の力によって、

ほどけ かた わたし おうじょう さだ
仏の方から私たちの往生を定めてくださいます。

そのように往生の決まったことを曇鸞大師は

しん いちねん おうじょう
「信の一念に、まちがいなく往生し

じょうぶつ さだ しょうじょうじゆ くらい はい しゃく
成仏することを定まる正定聚の位に入る」と釈されています。

そしてそのうえでの^{しょうみょうねんぶつ}称名念仏は、

によらい わたし おうじょう さだ
如来が私たちの往生を定めてくださった

ごおん ほうしゃ ねんぶつ こころえ
御恩を報謝する念仏と心得ねばなりません。

まことに^{おそれ おお とうと}畏れ多く尊いことでもあります。

あとかき

さいご 最後までお読みいただき、ありがとうございました。

き つ 気が付けば、この時点で、

じほう も じすう この寺報の文字数が、

りゅうこくだいがくふんがくふ そつきょうろんふん めやす 龍谷大学文学部の卒業論文の目安となる

20000文字に達しています・・・ (・□・；)

さいご すこ おも おお かんしゃ 最後は、少しの想いと、大きな感謝を。

この度は布施の目安表を明記しましたが、蓮生寺にとっては、仏事が

最重要事項ではありません。それといたしますのも、私は、この地で

「仏縁」を大切にされたい方々が、お布施の不明瞭・不明確さゆえに、

仏縁を大切に作る機会を逸してしまっている可能性への危惧から、あく

までも目安として、明記させていただいた次第です。ですので、仏事を

「される」「されない」に関わらず、この寺報がキッカケとなり一人でも

多くの方に「なんまんだぶつ」が伝わることこそ私の本望です。やはり、

750年以上も、必要とされ、続いているものは、私（人）でもなく、

お寺でもなく、「南無阿弥陀仏・なもあみだぶつ・なんまんだぶつ」です。

そして最後に、この寺報は蓮生寺門徒様の存在が無ければ、存在して

いません。そのうえで、設置に協力していただいている、郵便局の

方々。また、寺報に書かせていただいた青木葬祭様、本願寺、築地

本願寺、全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。

この寺報を通して「生老病死」「人生は苦なり」一人でも多くの方が

阿弥陀如来との仏縁により救われますように。

なんまんだぶつなんまんだぶつ

蓮生寺 住職 尾上智和